

令和5年度 岩手県立遠野高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

開催日時：令和5年11月13日（月）13：30～

会 場：遠野高校会議室

内 容：

議事（1）教育活動の経過報告

ア 重点目標に基づき報告

① 確かな学力の向上

ICT機器活用等

② 積極性・主体性及び人間形成能力の育成と教育相談の充実

学校行事 部活動 ボランティア・域行事への参加等

③ 自他の命を大切に、生徒一人ひとりが相互に尊重しあう姿勢の醸成

各種講演会 教育相談体制の充実等

④ 未来を生きるための進路実現

進路指導 関係団体に協力をいただき実施

イ 探究活動「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」への取り組み

前回ご覧いただいた活動から引き続きテーマを決め、ゼミごとに活動している。

ウ 行事等経過報告（スライドによる説明）

体育祭 野球応援 鍋城祭 地域みらい留学の取り組み 進路概況等

【質疑応答】

（A委員） 就職のうち管内の具体的にどのようなところか

（進路担当） よく知られている同一企業あり

（B委員） 地域みらい留学について 県外中学生希望状況はどの程度か。

（副校長） 中学2年の生徒保護者が真剣に質問をしてきた。

令和7年度入試に関わると思われる。

（B委員） 数年かけてじっくり考えてもらうという取り組みが望ましいのかもしれない。

議事（2）生徒及び保護者の学校評価の結果 （教務課）

ア 生徒による学校評価

全て肯定的評価 80 パーセント超

昨年度比高評価減（－5ポイント以上）

Q3「充実した学校生活」 Q5「授業における工夫した指導」

イ 保護者による学校評価の結果

肯定的評価（80 パーセント）に届かなかった項目

Q8「わかりやすい授業」72.3 Q16「生徒の悩みや相談に対する態度」78.6

※上記2つは、「わからない」という回答割合が高い項目でもある。

【質疑応答】

(C委員) 市教委でもアンケート実施。調査をもとに継続する具体的方策はあるか。

(校長) 継続的なものとしては、授業に対する評価を中心に、指導に生かしていくことが考えられる。

(C委員) 改善すべきポイントを挙げて、委員で話をするのがこの会ではないか。改善すべきポイントが見出しにくいアンケートだと感じる。

(校長) 中学生にどのように魅力を伝えていくかということが重要なポイントだと考えている。

(B委員) アンケートの数値以外に現状の課題を見出せるのではないか。積極的意見として書いている自由記述に注目してもよいと思う。

議事(3) 令和6年度アドミッションポリシーの改定

(校長) 令和7年度入試で導入される特色入試で中学生に示す必要があることも考え分かりやすいものに改めたい。

(B委員) 分かりやすいことは望ましいが、遠野高校が受け継いできた伝統の重みを感じられるものであってほしいという希望もある。

(校長) グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシーで示すことになる。

(D委員) 新たに導入される「特色入試」に向けた「分かりやすい学校の特色」は、どこの学校も平板になり、売りとする部分が伝わりにくくなってしまいう気もする。遠野高校をはじめ、ほかの学校は何を前面に出してくるか興味がある。

私立高校も魅力をアピールしているが、県立高校だから、地元の高校だから等、打ち出す魅力はあるはずである。伝える内容、伝え方が大切になると思うので、伝統的な校風等のアピールもなくさないように伝える工夫を望む。

(C委員) 推薦廃止で、特色入試の割合はどうか。

(校長) 推薦と変わらず定員の1割だが、競技の実績等を見る入試ではなくなる。

議事(4) 委員の方から

(E委員) 市教委として、協力し進めたい。魅力化プランについては、市民の意見を聞きながら進める形になっていく。

(F委員) 魅力化について、何が「魅力」か見極めるのが難しい。

「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」は、コロナが明けて更に深い探究ができると思うので、期待したい。

(C委員) 募集定員減に伴う弊害が様々あると思う。打破のために、希望する生徒数をあげていく必要がある。地域、行政、学校が協力する必要あり。学校運営協議会の

進め方と併せて、コーディネーターの役割について明確にするべき。

(G委員) 教育文化振興財団でも各事業をサポートしていきたい。海外派遣事業では出発に向け生徒たちが懸命に準備を進めている。

(B委員) 「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」への取り組みを頑張ってもらいたい。新たに協力できることを検討している。「文化的景観」を守る視点が求められている。新しいものもよいが、今までのものを守っていくという視点も必要。街づくり、ソフト面のアプローチが多い。インフラ等についても高校生に考えさせる機会を作りたい。仲間を増やして協力したい。

(D委員) 「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」において、昨年度依頼してきた数学ゼミは、ぎりぎりの依頼だった。余裕をもって依頼があれば協力ができる。

幅広い生徒を受け入れていると思う。アンケートにあった補習授業等の希望は、小中学校の支援体制をイメージしているのだと思う。アシストできる予算をどこからか捻出できないものだろうか。話し合いを深めたい。清水東高校の実践として「サッカーだけでなく、小中学校の生徒に勉強も教えている」という例がある。参考になるのではないかな。

(校長) 支援を必要とする生徒はいるが「かがやきプラン」による支援員配置を県に希望しているが、実現できないでいる。県と各自治体・市教委との制度の別があるので進めるのは容易でないと思うが、方策があるのであれば考えていきたい。

(A委員) 先生方は高校3年生の進路実現のため尽力してくれている。中学生に魅力を伝えるという部分では、別の苦労・難しさがあるのだと思われる。

「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」については、地域の課題から離れて活動している印象がある。地域と一緒に活動する姿勢が必要。

遠野の子供の学力が低下している。公営塾の案があるそうだ。中学生が外に出ていく心配もあるので、遠野高校の魅力を伝えながら学力向上を考えてほしい。

(会長) noteは自由に投稿できるのか。

(校長) 担当者が管理している。生徒も記事を作成しているが、中心として行っているのは、生徒指導主事と校長である。

その他

(市教委) 下宿補助の事業が開始された。生徒に月1万円、管理者に月1万円(環境整備、食事充実)。HPについて学校のページにもリンクをお願いしたい。